

令和5年1月12日
午前10時00分発表



広 報 資 料

問い合わせ先

小樽海上保安部

次長（交通担当） 小野 裕也

TEL 0 1 3 4 - 2 7 - 6 1 1 8（内線 3 7 9 0）

2022年の小樽海上保安部管内^(※)における 海難発生状況について(速報値)

2022年における小樽海上保安部管内^(※)で取り扱った船舶海難隻数及び人身海難者数は以下のとおりでした。

1 船舶海難の発生状況（別紙1、3参照）

(1) 2022年の船舶海難隻数は17隻で、昨年に比べ9隻減少。

(2) 船舶海難による死亡・行方不明者数は0人で、昨年に比べ増減なし。

2 人身海難の発生状況（別紙2、3参照）

(1) 2022年の人身海難者数は22人で、昨年に比べ33人減少。

(2) 人身海難による死亡・行方不明者数は10人で、昨年に比べ6人減少。

(※)小樽海上保安部管内…石狩・後志地方（石狩市浜益区～島牧郡島牧村）における沿岸地域

1 船舶海難の発生状況（カッコ内は昨年との比較）

(1) 船種別船舶海難隻数

船種別では、プレジャーボートが全体の約8割となる13隻（3隻減）と最も多く、次いで作業船2隻（2隻増）、遊漁船1隻（2隻減）、貨物船1隻（1隻減）となっています。

旅客船、漁船、タンカーによる船舶海難は発生しておりません。

プレジャーボートによる事故原因の多くが操船不適切、船位不確認、気象・海象の不注意等の運航上の不注意によるものでした。

(2) 船舶海難による死亡・行方不明者数

船舶海難による死亡・行方不明者数は0人（増減なし）となっています。

2 人身海難の発生状況（カッコ内は昨年との比較）

(1) マリンレジャーに伴う海浜事故

海水浴、釣り、SUP（スタンドアップパドルボード）等のマリレジャーに伴う海浜事故者数は13人（16人減）で、このうち死亡・行方不明者数は4人（2人減）となっています。そのうち、釣り中の事故が5人（8人減）、SUP中の事故が5人（3人増）、遊泳中の事故が2人（10人減）、ボードセーリング中の事故が1人（1人増加）となっています。

また、海浜事故者のうち、7割以上が札幌市民となっています。

(2) マリレジャー以外の海浜事故

自殺や海中転落といったマリレジャー以外の海浜事故者数は8人（8人減）で、このうち死亡・行方不明者数は6人（増減なし）となっています。

(3) 船舶海難によらない乗船者の人身海難

船舶海難によらない乗船者の人身海難者数は1人（9人減）で、このうち死亡・行方不明者数は0人（4人減）となっています。

3 まとめ

船舶海難は、原因の多くが船位不確認、気象・海象の不注意等の運航上の不注意であることから、引き続き訪船指導等において『常時見張りの徹底をする』『最新の気象情報を確認し、悪化が予想される場合には出航の取り止めや早期帰航をする』『発航前には必ず、船体、機関等についてはしっかりと点検する』ことを重点に指導していきます。

人身海難は、昨年比で33人減少していますが、SUP中の事故が増加傾向にあることから、事故防止活動において『必要な基本技術を身に着けたうえで、出航前に気象・海象の確認をする』こと及び開設期間外の海水浴場での事故及び海水浴場外での遊泳事故が発生していることから、事故防止活動において『開設中の海水浴場で遊泳する』ことを重点に指導していきます。

小樽海上保安部では事故の傾向を基に、引き続き事故防止の啓発活動を行い、船舶海難及び人身海難の減少に努めていくこととしています。

【参考】（用語解説）

- ・「船舶海難」について
船舶が海上において「衝突」「火災」「転覆」等の安全な運航が阻害された事態が生じた場合をいう。
- ・「人身海難」について
 - ① マリレジャーに伴う海浜事故
遊泳中や釣り中などマリレジャー中の事故をいう。
 - ② マリレジャー以外の海浜事故
岸壁等からの海中転落や自殺等をいう。
 - ③ 船舶海難によらない乗船者の人身海難
衝突、乗揚、転覆等の船舶海難以外の事由により発生した船舶の乗船者の海中転落、負傷、病気等をいう。